ISSN 0386-8931

二〇〇〇年三月十日 印刷
二〇〇〇年三月十五日 発行

史窓

第五七号

第 57 号

目 次

論 文

江蘇尹湾漢墓出土簡についての考察……永田英正（1）
——とくに「集簿」を中心として——

明初の対日外交と林賢事件……檀上寛（35）

米作単作地帯における大地主経営の基礎構造……中山清（57）
——貸付地経営を中心に——

京都近郊における延宝検地の一事例……岸妙子（75）
——「田中伊連日記」にみる下鴨村延宝検地記事を中心に——

『下鴨社家日記』にみる賀茂伝奏と下鴨社惣代……岸本香織（87）
——延宝期を中心に——

近世下鴨社における年中行事……宇佐美尚穂（103）

近世都市生活における疱瘡神まつり……佐藤文子（119）
——「田中兼頼日記」を素材として——

史料紹介

西園寺公望書簡——鳩居堂 熊谷信吉宛——……竹村房子（131）

彙 報……（155）

2 0 0 0

京都女子大学史学会

京都女子大学史学会

表紙の題字は故那波利貞先生の筆。『史窓』
が活版印刷になり第５・６合併号を発行した
とき（昭和29年）御書きいただいたものです。

彙報

一九九九年度　学会行事

新入生歓迎会

四月六日（火）　新入生オリエンテーション

新入生との初めてのご対面。今年は学会委員二年目の私たち、四回生の先輩がいないままのスタートです。頼りになるのは自分たちの経験だけ。昨年の記憶をたどりながら準備を進めました。

さて当日。二年目の貫禄を少し覗かせた委員長の挨拶に続いて各委員の自己紹介です。人前で話すことには幾らか慣れたはずなのに、いざ自分たちを見つめる新入生達の視線にぶつかると緊張してしまって、変な挨拶になってしまいました。バスツアーのお知らせなどを伝えた後は毎年恒例の質問タイムへと突入です。

今年も彼女達からの質問は多種多様を極めていて、私たちは教室中を出来る限り走り回りそれらに応えました。昨年も思ったことですが、応え方が不充分でこちらの言いたいことを伝えられなかったり、質問の内容を取り違えていることもあったことと思います。この場をお借りして深くお詫びいたします。

春の新歓バスツアー

四月十五日（木）

新入生歓迎バスツアー in 大原三千院

学会員にとっても一回生にとっても春のメインイベントであるこの『新歓バスツアー』。前日までに各自が役割分担して準備をすませました。

当日二限終了後の昼休み、B五〇四教室において先生方を交えての昼食会を開きました。新入生一人ひとりを名簿で確認しながら、お弁当とお茶を配ります。単純な作業に思えますが実はけっこう大変なのです。最初はまばらだった新入生達も時間が経つにつれぞくぞくと集まってきます。入口には長蛇の列が……。それをなんとか乗り切ると、頃合を見計らって瀧浪先生に三千院の解説・見所の説明をして頂きました。

次に大変なのがバスへの移動。やっぱり手間取っていまいましたが、なんとかバス三台は洛北・三千院へと出発しました。大学から目的地までは約四十分ほどかかります。バスの中ではさっそく自己紹介が始まりました。意外な共通点を見つけては盛り上がる場面もあったりして、その場の雰囲気は終始なごやかなものでした。

あっという間に三千院に到着。といっても駐車場から当の三千院までは坂道を登っていかなくてはなりません。先生方を含め総勢約一五〇名はぞろぞろと歩き出しました。

花曇りの中、土産物店を横目に道に沿って流れる小川のせせらぎに耳を傾けたり、春の草花を眺めつつ、ようやく三千院に着きました。寺院を拝観した後は、集合時間まで各自自由に過ごしていたようです。私たちは帰り道に土産物店に売っていた古代の赤米を使った米菓子を買いました。けっこう美味しかったですよ。

楽しい時間はすぐに過ぎてしまいます。全員そろっているかと点呼をとるとさあ大変です！人数が足りません。問題はすぐに解決しましたが、毎回バスツアーで大変なのは弁当配りとこの点呼確認だと思い知らされた学会委員たちでした。全員揃ったところでバスは帰路の道を走ります。午後五時半過ぎ、全員無事に帰ってくることが出来ました。平安観光の田村さん、今回もお世話になりました。

春季公開講座

五月二十八日（金）

近世のたび―行路難民の救済システムについて―

本学教授　柴田　純氏

ドイツ・エリートの教育社会史

―資格社会のメカニズム―

同志社大学教授　望田　幸男氏

卒業論文中間発表

日本史専攻　十月二十日（水）～二十二日（金）

東洋史専攻　十月十二日（火）、十四日（木）

西洋史専攻　十月十四日（木）、十五日（金）

秋季公開講座

十一月十八日（木）

シリア都市のイスラーム化

本学助教授　谷口　淳一氏

京都の遺跡と文化財保護

京都市埋蔵財文化センター副所長　梶川　敏夫氏

一回生親睦会

十二月二日（木）

一回生と先生方との交流をはかるとともに来年度の専攻分けについての質問会をかねた親睦会が昼休みに行われました。すでに専攻を決めているのか黙黙とお弁当を食べている人もいれば、先生方のお話を熱心に聞いている人もいました。

短い時間でしたが、充実したひとときとなりました。

卒業生予餞会

十二月二十日（月）

卒業生と先生方が一同に会し、毎年恒例の予餞会が和やかに行われました。卒業論文という最終最大の課題を無事に終えられた先輩方の清々とした笑顔が印象的でした。

早春の学会旅行

三月二十二日（水）、二十三日（木）

琴平温泉をメインとした四国方面の旅を企画しています。

（早川　夕香）

一九九九年度　史学科講議題目

史学科共通

講義

史学概論（前・後期）　常松教授・柴田教授
日本史概論　瀧浪教授・中山教授・坂口助教授
東洋史概論　植松教授・檀上教授
西洋史概論　藤縄教授・古賀教授・常松教授
孝古学　家根講師
民俗学　根井講師
歴史地理学　中村教授
日本美術史　河上講師
東洋美術史　西上講師
西洋美術史　愛宕講師

講読

漢文　三宅講師

日本史専攻

特講

古代都市論―平安京から京都へ―　瀧浪教授
中世人の意識　稲本教授
近世・近代地主制史の諸問題　中山教授
新しい文化史としての移民史の研究　坂口助教授
近世武士の行動と思想　柴田教授
京都の文化と芸能　山路講師

講読

日本史講読Ⅰ　中山教授・坂口助教授
日本史講読Ⅱ　瀧浪教授・稲本教授・佐藤講師

演習

日本史演習Ⅰ　瀧浪・稲本・中山・柴田教授・坂口助教授
日本史演習Ⅱ　瀧浪・稲本・中山・柴田教授・坂口助教授

東洋史専攻

特講

中国史における近世と征服王朝論　植松教授
古代東北アジア史の諸問題　田中講師
ユーラシア民族文化史　谷口助教授
中国宋代都城史研究―『清明上河図』の世界　木田講師
中国古代官僚制度の研究　永田教授
中国法制史　冨谷講師

講読

東洋史講読Ⅰ（国史旧聞）（史記）　檀上教授
東洋史講読Ⅱ（柴山大全集）（通鑑紀事本末）　角谷講師
東洋史講読Ⅲ（廿二史劄記）（中国現代文献選読）　植松教授
　　藤田講師
　　永田教授
　　檀上教授

演習

東洋史演習Ⅰ　永田・植松・檀上教授・谷口助教授
東洋史演習Ⅱ　永田・植松・檀上教授・谷口助教授

西洋史専攻

特講

アメリカ大衆消費社会　常松教授
古代ギリシア史概説　藤縄教授
ビザンツ帝国衰亡史　井上講師
ドイツにおける宗教改革と国家　渡邊講師
イギリスの帝国と科学　川島講師
バルカン、ユーラシアの東西文化交流　中村教授

講読

西洋史講読Ⅰ　古賀教授
西洋史講読Ⅱ　青木講師
西洋史講読Ⅲ　中村講師

演習

西洋史演習Ⅰ　藤縄・古賀・常松教授
西洋史演習Ⅱ　藤縄・古賀・常松教授

一九九九年度　卒業論文題目

日本史専攻

赤川　典子　鎌足の嫡男・定恵
荒木　千佳　明治の「女学生」イメージ―明治後期のメディアに見る―
石川恵利奈　源氏物語の歴史的背景―紫式部の生涯―
石黒　博子　藤原内麻呂に関する一考察
磯村　仁美　兵の要素・発展などからみる「武士のおこり」
井上加奈子　幕末期における会津藩について
伊来　梨恵　北条政子―政子の立場の変遷からその役割を見る―
岩見由比子　北条泰時の政治政策
内田　智子　天武朝の皇子・皇女
浦霧由美子　伊万里焼と鍋島藩
大久保友美　近世初期の京都の町運営
太田　尋子　享保の飢饉―福岡藩について―
岡田　美穂　湯殿山の即身仏信仰について
加賀　景子　長岡京は仮の都だったのか
加藤　悦子　明治初期における旧幕臣―新政府官僚を中心として―
國武さとみ　鉄舟の活躍―江戸城無血開城において―
小林　里沙　開国―英仏の対日外交政策の比較を中心に―
相良　恵　平安京にみる人々の交わり
佐竹　朋子　文久の修陵について
佐藤　知子　日本人から見たアジア
高橋ひろみ　天平寺院の尊像配置―金堂を中心として―
武田　里美　西淀川公害―住民運動―
田辺　園子　従軍慰安婦問題と差別
抱江　麻希　日本の称制に関する一考察
近松亜希子　第二次大戦下における京都への原子爆弾投下について―ウォーナー伝説を検証する―

塚田佐恵子　歴史学における情報化―歴史研究へのコンピュータ利用の可能性―
徳永　淳子　平安貴族の実態―衣食住生活を通して―
中井　里衣　明治前期における大阪の農民
中田　愛　野球〝全国化〟の経緯―学生野球の場合―
中谷　桃子　近代日本社会とクリスマス―新聞からみる―
中村　友香　オッペケ先生欧州を行く―川上音三郎の洋行体験―
永田　優子　行政にとりこまれた近代産婆―京都の産婆学校・産婆組合より―
長田由美子　大坂城城下町発展の構造―秀吉とその発展を支えた人々との関わり―
西浦　真紀　流刑―八丈島と流人―
西堀　真澄　連合赤軍―死に至る自己批判―
西村恵理子　乳母の繁栄
西本　香織　平安初期の後宮
馬場　絢子　平安初期の皇親賜姓に関する考察―淳和期を中心に―
平井　祥子　河井継之助と長岡藩―北越戦争を中心に―
福島　恵　『主婦之友』が描く女性像―大正六年～一五年―
福田　潤子　平安時代中期の婚姻形態について
藤田真由美　榎本武揚の開拓思想について―北海道開拓と南洋・メキシコ殖民―
本郷ゆう子　日本古代の女帝について
前田　りさ　幕末期における富士山御師の行動―蒼龍隊の場合―
増渕　亜紀　享保期の防火政策と江戸町人の対応―日本橋坂本町を中心に―
松井菜穂子　対立する南京大虐殺論
松岡　佐知　平安朝の乳母
松田　知子　長屋王の変の目的
松原　栄美　「紫式部日記」―「斎院」批判を中心に―
松本記小代　京都町奉行の一与力を通じて見られる新たな与力像について
丸岡　有希　藤原百川に関する考察
水谷　友紀　近世後期奈良町における救済政策―川路聖謨奈良奉行在任中を中心に―
南　晃子　慶長遣欧使節派遣の目的―伊達と幕府の考え方の相違を中心に―
宮古　明子　平安時代寛弘期の和歌の興隆
武藤佳央理　壬午・甲申事変期における日本の朝鮮政策
宗定　陽子　備前国における守護赤松氏と被官浦上氏の興亡―浦上則宗を中心に―
森藤ひとみ　「ばさら」と「かぶき者」について
八島　千枝　山姥とは
山口　圭子　中世甲斐武田氏について―勝頼時代の考察―
山品　るみ　生類憐愍令
山中　裕子　軍部大臣現役武官制―大正二年の改正とその影響―
山本　正代　北政所の成立
渡邉　恵美　九州南北朝期における征西府の位置づけ
明石　寛子　台湾の近代化―後藤新平の政策について―
井村　千加　大和における廃仏毀釈
武田　明子　斎王の出自
深澤　文香　幕末・維新期の甲斐国―民衆にとっての明治維新―
久保山淑子　日本における聾教育―古河太四郎による教育と京都盲唖院設立―
森本　奈穂　渡来氏族・東漢氏の考察
鈴木　順子　持統天皇とその時代―東アジアの視点からみた日本の女帝―

東洋史専攻

上利　朗子　モンゴル帝国初期皇位継承問題
荒井　梓　『御製大誥』頒行にみる朱元璋の政治的意図
石川　朋可　満洲国建国前夜の中国人の動向―奉天を中心として―
伊藤麻依子　宋遼関係と貨幣についての考察
江崎　真弓　唐の太宗とその政治思想
小笹真里子　王安石に対する評価の変遷
加藤　友香　東晋成立期における北来勢力と江南勢力
木村加代子　明初の官吏登用制度
久米佳世子　鄭成功独立政権への軌跡―政治的・経済的基盤を中心に―
酒向　温子　「坤輿万国全図」における世界観―『海国図志』を通して―
仙田　郁代　古代中国における科学的天文学の考察―キトラ古墳の天文図を手がかりとして―
竹本　慶子　北宋漕運をめぐる官民関係について
谷口友佳子　曹操―その戦いからみた素顔―
津川　智美　古代中国における方士と巫覡の性格についての考察
西田　彩子　潘佩珠と潘同楨―二人の初期ベトナム民族運動指導者―
西山　仁美　諸葛孔明―政治からみた諸葛孔明の人物―
馬場理恵子　管仲の思想からみた法思想の考察―法家思想の発展と関連して―
平田　美怜　トルコ経済におけるエタティズム―採用と変化―
藤田　智子　則天武后―その恐怖政治について―
藤田　令子　後漢の清流派―荀彧を手掛かりとして―
本堂　友子　変化した牙人
丸見　朋子　エジプト・マムルーク朝のワーフィディーヤ
村松　賢子　北魏時代における仏教の発展について―太武帝廃仏事件を中心に―
山分弥衣子　明清時代徽州商人の台頭とその実態―宗族結合を中心として見た―
吉田　久美　琉日関係の原像―冊封体制下の薩琉関

綿引　福実　係を中心に—
唐代の義邑と杜邑

西洋史専攻

穴吹　彰子　世紀転換期のアメリカ社会とベースボール
有賀　里美　七月王政期におけるコレラの流行とパリの民衆
井川　圭子　ハンガリー1848年革命と民族主義
大西　紀子　近世ロシアの僭称者—偽ツァーリの登場とその背景—
岡本　明子　イタリア・ルネサンス—芸術家の社会的地位—
貴傳名暁子　フランス革命下の非キリスト教化運動について
白濱　礼子　エリザベス救貧法と絶対王政の展開
副田　智子　古代エジプトの王権と宗教
竹中　千秋　フィレンツェ—ルネサンス芸術の開花—
谷本　裕子　イギリス茶貿易の発展
中崎　雅子　ナチスの宣伝活動と大衆
古海　園子　黒人の北部移住と文化、生活
外薗　千賀　ローマ帝国におけるキリスト教国教化への道
堀江加奈子　1964年公民権法とアメリカ黒人
松本　神奈　騎士—その理想と現実—
森　美恵子　流刑地オーストラリア
安居　美穂　1920年代アメリカのモラル革命
矢幡　愛　十九世紀後半におけるアメリカ・インディアンの歴史と文化

一九九九年度　大学文学研究科

史学専攻講義題目

特論

女帝論Ⅱ　瀧浪教授
日本中世史特論　稲本教授
※近世大地主制度の成立と展開（Ⅰ）　中山教授
※日本における移民研究の成果と課題（1）　坂口助教授
※近世武士の行動と思想　柴田教授
対外観の変遷　杉井講師
京都の文化と芸能　山路講師
日本古文書学　下坂講師
出土文字資料による中国古代・中世史の諸問題　永田教授
中国社会と「士」階層　檀上教授
元代史の研究　植松教授
※ユーラシア民族文化史　谷口助教授
※バルカン・ユーラシアの東西文化交流　中村教授
※中国古代・中世の罪と罰　冨谷講師
※中国宋代都城市研究—『清明上河図』の世界—　木田講師
古代ギリシア世界の成立と周辺世界　藤縄教授
西洋近代史特論　古賀教授
20世紀アメリカにおける都市　3　常松教授
※ドイツにおける宗教改革と国家　渡邊講師
※イギリスの帝国と科学　川島講師
※ビザンツ帝国衰亡史　井上講師
（※は学部共通）

一九九九年度　大学院修士論文題目

川端佐和子　豊臣政権における奉行と秀次事件
西村さおり　平氏の勢力基盤—台頭過程における寺院との関わり—
八田　奈穂　平安初期侍従の存在形態
松島　典子　中世後期北野社の社内機構について

一九九九年度　大学院行事

四月二八日　歓送迎会（萬三）
七月　七日　プレ中間発表
九月一三日　MI研究発表会
一一月一七日　中間発表
懇親会（洛匠）

研究室だより

本年度四月、新しく三人の先生方、中村泰三教授、柴田純教授、谷口淳一助教授が着任されました。中村教授のご専門は、ロシア・東欧を中心とした人文地理学で、歴史地理学や人文地理学を担当されています。柴田教授のご専門は日本近世の思想史で、日本史特殊や演習Ⅰ・Ⅱを担当されています。谷口助教授のご専門は、イスラーム時代の西アジア史で、東洋史特殊や演習Ⅰ・Ⅱを担当されています。三人の先生をお迎えして、史学科のスタッフは総勢十三人になりました。

同じくこの四月から、大学院が改組され、新たに博士課程の前期（かつての修士課程）・後期（従来のいわゆる博士課程）が発足しました。そして、博士後期課程に二人の「新入生」が入学しました。また、昨年度から始まった大学院博士前期課程の秋季入学試験には、久々に十人を越える受験生があり、九人が合格しました。従来通り、春季にも入学試験が行われ、若干名の入学が期待されますから（この原稿は一月末の時点で執筆しています）、大学院学生の研究室は、これまでにない大所帯になることでしょう。

十数年来、稲本先生をチューターに迎え、佐藤文子さん（現在、本学非常勤講師）を中心に、大学院研修生・大学院学生によって行われてきた「古文書を読む会」の成果の一端が、稲本紀昭・佐藤文子編『京都女子大学図書館蔵　下鴨社家日記Ⅰ』の題名のもと、京都女子大学研究叢刊31として出版されました。今後の中世・近世史研究に大いに裨益するものと思われます。

来年度、史学科はいよいよ創設五〇周年を迎えることになります。新ミレニアムやらと違って、これは、少なくともわれわれ京都女子大学史学科の教員・学生にとっては、意義深い節目であるし、またそうならねばならないと確信するものです。

今年度の学会旅行は、三月二十二日から二十三日にかけて四国の金刀比羅宮参拝に出かけることにな

っています。現時点で参加者が定員に達し、募集締め切りの報が掲示されていますから、さぞ賑やかな旅行になることでしょう。

（常松）

学会委員

一九九九年度の学会運営に協力してくださった学会委員は、次の方々でした。委員長をはじめほとんど昨年度の委員がそのまま留任して、史学会諸行事の企画から運営までの全般を支えてくれました。心より感謝する次第です。

委員長　西洋史三回生　松木　志保
副委員長　日本史三回生　山崎いずみ
会計　日本史三回生　赤沢亜由美
書記　日本史三回生　早川　夕香
日本史三回生　清　さつき
日本史三回生　松木みゆき
東洋史二回生　黒川麻梨子
西洋史二回生　是澤　綾
西洋史二回生　徳山　真由
一回生　欅田　志穂
一回生　高橋美すゞ
一回生　高山　薫

編集後記

『史窓』第五七号をお届けします。本号は、東洋史の論文二本、日本史五本、史料紹介一本という構成になりました。うち日本史の四論文は、『下鴨社家日記』を用いた共同研究の成果です。西洋史の論文が得られなかったのは残念ですが、日本史の論文四本と史料紹介が、卒業生、研修生・大学院学生によって書かれていることは、これまでの本学大学院の歴史をよく物語っていると思います。今後は、大学院博士後期課程ができたことでもあり、これまで以上に大学院学生の執筆が期待されます。

「研究室だより」にも書きましたが、来年度は史学科開設五十周年を迎えますので、現在、特集号の出版にむけて準備を行っています。これまで京女で教鞭をとられた先生方、大学院を修了した諸先輩に、執筆いただくことになりました。乞う、ご期待と予告しておきます。

（坂口）

執筆者紹介

永田　英正　本学史学科教授
檀上　寛　本学史学科教授
中山　清　本学史学科教授
岸　妙子　本学大学院博士後期課程
岸本　香織　本学大学院研修者
宇佐美尚穂　本学大学院研修者
佐藤　文子　大西清右衛門美術館主任学芸員
竹村　房子　本学卒業生
（掲載順）

史窓　第57号

二〇〇〇年三月十日　印刷
二〇〇〇年三月十五日　発行

編集　京都女子大学史学会
印刷所　株式会社図書印刷同朋舎
発行所　京都女子大学史学研究室
京都市東山区東山七条
電(〇七五)五三一―九一一一

KYOTO WOMEN'S UNIVERSITY

Journal of Historical Studies

SHISŌ

Vol. 57 March 2000

Contents

Articles

NAGATA Hidemasa, Inscribed Wooden Slips Found in the Han Tomb at Yin-Wan 尹湾, Chiang-Su 江蘇: A Study of the Chi-Pu 集簿 Document ····· (1)

DANJO Hiroshi, The Diplomacy toward Japan in Early Ming Dynasty and Lin Xian 林賢 Incident ····· (35)

NAKAYAMA Kiyoshi, The Basic Structure of Large Landowner's Management in the Single-Crop Area ····· (57)

KISHI Taeko, *Enpo* 延宝 Land Survey in the Suburb of Kyoto: A Case of Shimogamo Village as Seen in the Diary of *Tanaka Koretura* ····· (75)

KISHIMOTO Kaori, *Kamo-Tenso* 賀茂伝奏 and *Sodai* 惣代 of Shimogamo Shrine in *Enpo* 延宝 Era ····· (87)

USAMI Takaho, Annual Rituals of Shimogamo Shrine in the Edo Period ····· (103)

SATO Fumiko, Deification of *Hoso-no-kami* 疱瘡神 as Seen in the Diary of *Tanaka Kaneyori* ····· (119)

Historical Documents

TAKEMURA Fusako, Letters of Saionji Kinmochi Addressed to Kumagai Nobuyoshi ····· (131)

Miscellaneous ····· (155)

THE ASSOCIATION OF HISTORICAL STUDIES

Kyoto Women's University, Kyoto, Japan

ISSN 0386-8931